

ワケ カタチには理由がある(39)

～DHドラゴンラピッド(Dragon Rapide)



[↑ハリケーン戦闘機と。輸送機としては、とても小型の機体です。]

本機は、デハビランド社が製作した複葉の小型輸送機です。1934年に初飛行し、700機以上が生産されました。パイロット1名で(副操縦席はなし)、乗客は最大8名を運べましたが、単発のハリケーン戦闘機と比べてわかるように、輸送機としては小型の機体で、エンジンの馬力も200hp(ジブシークインエンジン)ですから、左右の2つを合わせても、1000hp(マーリンエンジン)を積んだハリケーン戦闘機に適いませんでした。このように小型で非力な機体ですが、ペーパーナイフを2つ重ねたような主翼、主脚スパッドを一体化した存在感あるエンジンナセル、さらに弧を描いて斜め後方に延びる楕円の垂直尾翼など、とても美しい外観を有しています。今後、同社が開発するモスキート爆撃機もやはり曲線で形成された美しい輪郭を有しますから、その設計に向けて、助走となった機体でもありました。本来民間機ですが、戦争中はこの模型のように迷彩塗装を施されて、空軍でも輸送機として使用されましたが、どこか生粋の軍用機とは一線を画す優雅な雰囲気を感じさせます。

【模型について】

フランスのエレール(Heller)製 1/72 のインジェクションキットです。多分、40年以上も前にリリースされた古いキットですが、この機体の特徴をよくとらえた佳作です。欠点と言えるかわかりませんが、キャビン窓並ぶ側面が帯状に低くなっていて、実機にない段差がモールドされています。そのため、この段差をふさぐサードパーティーのエッチングパーツを使って、これを修正しています。

(中川裕幸 2021年8月)